

6 個に応じた指導につながる

- 1 特別支援教育と端末活用
- 2 外国につながりのある児童生徒に対するGIGA端末の活用
- 3 不登校児童生徒への支援



6-1-1 特別支援教育と端末活用

特別支援教育におけるICT活用の視点

特別支援教育におけるICTの視点は以下の図に示されている視点1・2です。特に、視点2の「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する」という自立活動の視点は、特別支援教育においては重要な視点となります。学びにくさを感じている児童生徒に対する困難さに応じた端末の活用で、児童生徒の「できるかも」や「やってみたい」を支えていきましょう。

視点1

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするためにICTを活用する視点

視点2

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを活用する視点



障害の有無や学校種を超えた共通の視点

各教科等の授業において、他の児童生徒と同様に実施

自立活動の視点

特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点

障害の状態や特性やそれに伴う学びにくさは多様かつ個人差が大きく、障害のない児童生徒以上に「個別最適化した学び」(≒「特別な支援」)が必要

6-1-2 特別支援教育と端末活用

【Chromebook】ユーザー補助機能の設定方法

困難さに応じた端末の活用では、ユーザー補助機能の設定が必要な場合があります。設定方法は以下のとおりです。



設定 ⇒ 詳細設定 ⇒ ユーザー補助機能 ⇒ ユーザー補助機能の管理

6-1-3 特別支援教育と端末活用

【iPad】アクセシビリティの設定方法

困難さに応じた端末の活用では、アクセシビリティの設定が必要な場合があります。
設定方法及びアクセシビリティ以外の設定については以下のとおりです。

設定 ⇒ アクセシビリティ



アクセシビリティ以外の設定



画面表示と明るさ

- ・画面の明るさ設定(手動)
- ・自動ロックの設定



ホーム画面と Dock

・「大きいAppアイコンを使用」
を有効にすると、ホーム画面の
アイコンを大きく表示させること
ができる

6-1-4 特別支援教育と端末活用

1. 視覚障害（見えない・見えにくい）のある児童生徒に対する活用

個別最適な学び

- ・視覚情報を音声（聴覚情報）や点字（触覚情報）に変換する
- ・文字の大きさやコントラストを調整し、個別で見やすい環境を作る

画面を見やすく

【Chromebook】

- ・全画面拡大鏡
- ・ドッキング拡大鏡
- ・カメラ機能
- ・ハイコントラストモード

【iPad】

- ・ズーム
 - ・画面をピンチアウト
 - ・カメラのズーム機能
 - ・画面設定と明るさ
- ⇒テキストサイズや文字の太さの調整も可能

音声入力と読み上げ

【Chromebook】

- ・音声入力
- ・Chrome Vox
- ・テキスト読み上げ

【iPad】

- ・Siri
- ⇒声で端末を操作できる
- ・VoiceOver
 - ・読み上げコンテンツ
- ⇒入力フィードバックを使うと正しく入力できているか確認できる

背景が黒で文字が白いほうが見やすいんだ。GIGA端末も見やすくなれば、もっと勉強しやすくなるな。



6-1-5 特別支援教育と端末活用

2. 聴覚障害（聞こえない・聞こえにくい）のある児童生徒に対する活用

個別最適な学び

・聴覚情報（周囲の音・音声）とそれが表す意味内容などの情報を視覚化

視覚情報の活用

【共通】

- ・大型ディスプレイの使用
- ・カメラ機能
- ・GoogleMeetで手話を映しながら会話をする

音の出力方法の調整

【共通】

- ・モノラル音声の設定
- ⇒聞こえ方に偏りがある場合に有効

環境の見える化

【共通】

- ・音声入力
- ⇒会話や授業のテキスト化
- 【Chromebook】
- ・字幕
- ⇒動画に字幕をつける

【iPad】

- ・サウンド認識
- ⇒特定のサウンドをiPadが認識したときに通知が送信される
- ・標準字幕とバリアフリー字幕

授業の中でよく聞こえなかったところとか、班で話し合いをする時に友達が言ったこととかがわかるといいな。



6-1-6 特別支援教育と端末活用

3. 肢体不自由のある児童生徒に対する活用

個別最適な学び

- ・身体機能の状態や体調の変化などに応じて、意思の表出を補助し、他者との触れ合う機会を提供する

操作方法の工夫

【共通】

- ・高さや角度の調整
- ・入力補助装置の活用

【Chromebook】

- ・自動クリック
⇒一定時間カーソルを固定しクリック操作ができる
- ・スイッチアクセス
⇒画面の表示箇所を設定したボタンで選択する

【iPad】

- ・Assistive Touch
⇒長押しやダブルタップ等の細かい操作をタップのみで行う事ができる
- ・スイッチコントロール
⇒画面の表示箇所を設定したボタンで選択する
- ・アクセスガイド
⇒接触が認識される範囲を設定（誤操作の防止）する

もっと色々なことに
使えるようになりたい
なあ。



6-1-7 特別支援教育と端末活用

4. 病弱（入院や自宅療養が必要な児童生徒に対する活用）

個別最適な学び

- ・高速大容量通信ネットワークを病院や自宅等で使用できるようにして、遠隔教育を実施

健康の保持の視点

【共通】

- ・Googleフォームを使って健康状態を記録・確認
⇒Googleスプレッドシートで一覧にすることができる（個人情報の取扱いに留意する）

入院や自宅療養の児童生徒の学びの保障

【共通】

- ・ドリルパークの活用
- ・GoogleClassroomで課題の受信

かかわりを広げる

【共通】

- ・GoogleClassroomで学校とつながる
⇒ストリームに作品等を投稿したり、友達の投稿にコメントしたりすることができる

- ・Google Jamboard等の授業の課題に参加する
⇒同時に編集できなくても、後から自分の意見を加えることができる

病院や自宅に居ても、自分のできる時間の中で勉強したいし、友達とも話したいな。



6-1-8 特別支援教育と端末活用

5. 知的障害のある児童生徒に対する活用

個別最適な学び

・抽象的な事柄の理解と話し言葉によるコミュニケーションの代替に活用

抽象的な事柄の理解	意思の表出
<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・Googleスライド ⇒情報を視覚化して提示・Google Jamboard ⇒直感的に操作ができる教材が作成でき、抽象的な概念を理解する手立てとして有効	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・Googleフォーム ⇒気持ちを選択肢から選んで伝える経験をする・Googleドライブ ⇒絵カードを保存しておき、いつでも取り出せるように

段階的な学び
<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・課題をコピーして繰り返したり、段階に応じて変化させたりする・ドリルパークの活用

自分の気持ちをうまく伝えられるようになりたいな。



6-1-9 特別支援教育と端末活用

6. 発達障害のある児童生徒に対する活用

個別最適な学び

・教科指導等における読みや書き、思考の整理などにおける困難を軽減・解消

読みの困難さ

【Chromebook】

・テキスト読み上げ

【iPad】

・読み上げコンテンツ

⇒正しい読み方を確認しながら練習したり、端末が代わりに読んだりすることができる

・画面を見やすくする設定については[視覚障害](#)のページを参照

書きの困難さ

【共通】

・音声入力
・タイピング入力
・カメラ機能

思考の整理

【共通】

・Googleスライド
⇒考えたことや発表することを整理する
・Google Keep
⇒メモで必要な情報を整理

タイピングは得意だから、これならみんなと同じようにできるかも。



6-2-1 外国につながるのある児童生徒に対するGIGA端末の活用

1. 学級の中での支援 一人一人の実態に寄り添いながら

温かい学級づくり
(多文化共生)

○安心して過ごせる温かい学級づくり温かい雰囲気づくりに活用

→世界のあいさつや文化、料理や場所等を調べて話題にする。「友達のかかわりのある国を調べてみよう」
興味関心を広げ、違いや良さを感じて理解を広げていく →視点を変えると日本文化を知る機会にもつながります。

○世界を知る、異文化理解を広げるツールに

→インターネットのよさを生かして世界を身近に感じる機会を作ります。(学習関連、ニュースやスポーツの話題等)

○コミュニケーション手段としての活用

→Google翻訳を使って児童生徒同士で伝え合ったりイラスト等を使って内容や気持ちを伝えたりして活用します。

わかりやすい
授業の工夫

○「どの子にも分かりやすい授業」を意識して、様々な手立ての中で積極的に活用

例) ・内容の理解…ねらいの明確にして内容を焦点化する、復習、既習とのつながり
・学習の過程…視覚的支援(図、グラフ、写真、映像等)、具体物、活動や思考場面、共有の方法
・学習の成果…できた実感させる手立て、習得したことを活かす場面、学習のまとめ

→外国につながるのある児童生徒だけでなく、すべての児童生徒にとって有効な支援につながります。

個別最適な学び

授業の中での
個別の配慮

○授業の中で、児童生徒のつまずきを想定した支援を行う

・児童生徒の理解度に応じた支援としての活用
個に応じた目標設定、物の名前や表現などの知識を補う、既習や考え方を示す
個別の課題、表現の支援、定着を促す支援 等

→日本語指導担当者と学級担任の連携を図って支援
学習状況を共有し、基礎学習の積み上げや補習、習熟を図る練習等に協力して取り組みましょう。

6-2-2 外国につながるのある児童生徒に対するGIGA端末の活用

個別最適な学び

2. 日本語指導 個別や少人数指導の中での活用

日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにするための指導を実態に応じて進める

コミュニケーション 支援

○Google翻訳 日本語に不慣れな児童生徒とのコミュニケーションに 語彙を広げ理解を深める面でも活用

日常会話の学習

○動画コンテンツ

日本語学習の教材を使って会話の練習を行うことが多くありますが、動画のコンテンツも活用できます。

- ・国際交流基金「エリンが挑戦 にほんごできます」
- ・文化庁 「つながるひろがる にほんごでのくらし」等 → 視聴後に文型を意識して表現を広げていきます

学習指導

視覚資料の提示
や教材準備等で
GIGA]端末の有効
活用を

※学びの様子を学級担任との間で情報共有し、補充し合っていくことが大切です。

○教材サイト

- ・日本語指導では一人一人に応じた教材準備が必要なため、多様なサイトから適した教材を探して活用します。
例)・ちびむすドリル ・すきるまドリル ・ドリルの王様 ・プリントキッズ・学習プリント .com 等
- ・教科書の出版社も準拠した問題や理解を図る動画を掲載しています。 2次元コードの補充資料等も活用
例) 教育出版・小学算数 スリーステップドリル、花まるワーク ・ 中学校数学 まなびリンク、小テスト

○NHK for Scool

社会や理科では分かりやすい映像を使った番組があるので、視聴して内容を確認すると理解が深まります。「おはなしのくに」「やさしい日本語会話レッスン」「NEWS WEB EASY」なども使用できます。

○ドリルパーク

児童生徒が自分の学習状況に応じて知識の定着や理解を深めるための学習として活用できます。

※GIGA端末の活用事例ではありませんが、光村出版の国語教師用指導書に付属している CD-ROMには教科書のルビ付データが収納されていますので、必要に応じて活用してください。

6-3-1 不登校児童生徒への支援

1. 民間施設、及びICTを活用した学習を出席扱いとするためのガイドライン

ICTを活用した学習

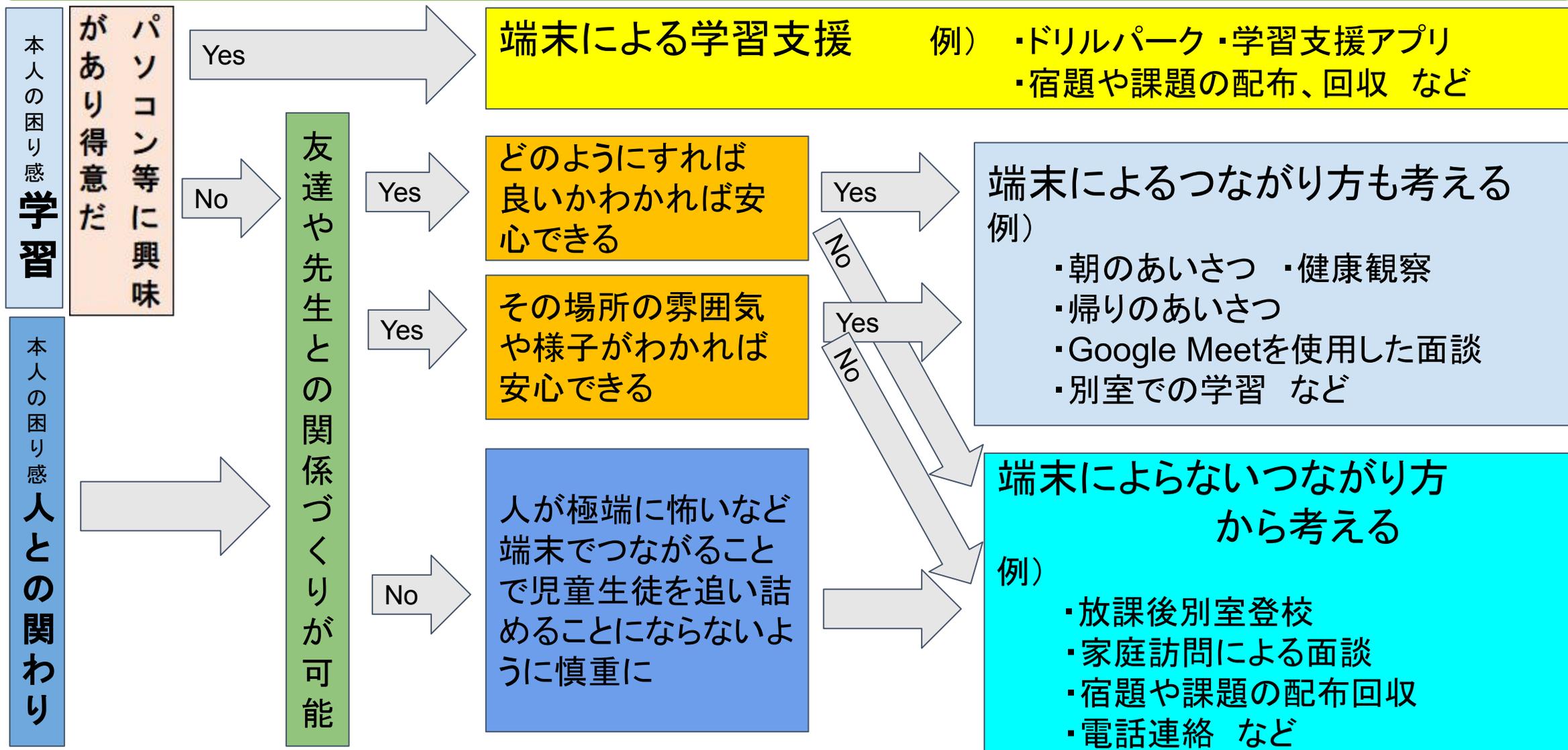
民間施設やICTを用いた在宅学習の出席や学習評価については、令和元年に文部科学省より「不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取り扱いについて」という通知が出されています。それを受け、本市でも「[民間施設、及びICTを活用した学習を出席扱いとする場合のガイドライン](#)」(令和2年4月1日学校教育一部指導課)を発出しております。

本ガイドラインでは、不登校児童生徒が民間施設に通ったり、ICTを用いて在宅学習を行ったりした際に、在籍校において学校長が当該児童生徒を出席扱いとする場合の目安として、保護者や学校の留意点を示しています。



6-3-2 不登校児童生徒への支援

2. 端末を使う登校支援例



6-3-3 不登校児童生徒への支援

3. 端末を使用した教育相談

1. 基本的な考え方

端末を使用した教育相談は、対面で会うことが困難で、端末によるつながりが支援に有効と考えられる場合に実施します。教育相談に際しては保護者の同意を得ておきます。

※この場合の教育相談とは、1対1の面談ばかりでなく、児童生徒とつながりをもつための会話も含みます。

2. 場所

相談の場合教員は周囲に会話が聞かれることのない安全な場所で行います。

3. 時間

基本的に勤務時間内に実施する。早朝や夜遅くは避け、1時間を超えない範囲の時間で事前に予定を決めて実施します。

4. 形態

目的によって対応する教職員や人数は適切に判断します。

※但し児童生徒の相談の場合、保護者が家にいることが必要です。

5. 会議システム

GoogleMeetを使用します。



6-3-4 不登校児童生徒への支援

3. 端末を使用した教育相談

6. 留意点

・通信上の課題

話すタイミングや相手の反応の遅れが発生する場合があります、自然な会話のやり取りができないことがあります。

・禁止事項

相談を受ける側、する側双方ともに録音録画は禁止とします。個人情報(住所等個人を特定できる情報)は言わないようにします。

・緊急時について

児童生徒が教育相談中に泣き出したり体調を崩したりする場合もあるので、緊急時の連絡体制を整えておきます。

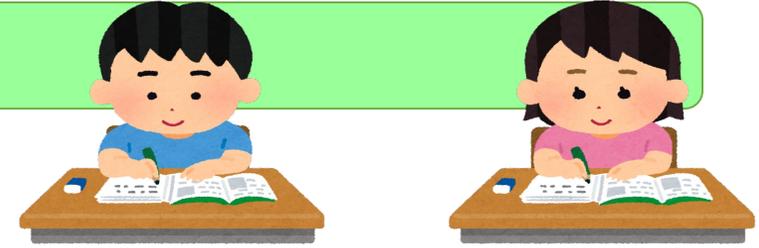
・その他

オンライン上では、不登校児童生徒は特に表情の変化や、声の調子などから気持ちを汲み取りにくいことを理解した上で実施します。



6-3-5 不登校児童生徒への支援

4. 映像教材を活用したGIGA端末による学習支援



不登校等長期欠席傾向のある児童生徒への学習支援

GIGA端末において、映像教材等で学習できる学習支援アプリケーションを活用していきます。詳しい活用方法については研修等でお伝えしていきます。

各学校にアカウント貸与

令和4年度からアカウント数を全小中学校、特別支援学校の長期欠席傾向のある児童生徒に対応できるように増やし、貸与します。

教員向け支援機能

宿題配信機能や学習履歴モニタリング機能、教科書対応表や単元テスト等、教員向け業務支援機能を利用した児童生徒の学習状況の把握や、1人1人の達成度に応じたきめ細かい支援を行うことができます。

講義動画による学習支援

不登校等長期欠席傾向のある児童生徒と学校をつなぐ1つのツールとして、講義動画を活用することができます。

講義動画は児童生徒のタイミングで視聴することができます。理解の程度に応じて再生速度を変えたり、見たい所のみを視聴したりすることもできます。

授業の進度に合わせて、学級の学習と同じ範囲の講義動画の視聴を促すことにより、児童生徒の支援につながります。

6-3-6 不登校児童生徒への支援

4. 映像教材を活用したGIGA端末による学習支援

不登校等長期欠席傾向のある児童生徒への学習支援

よくあるお問い合わせ

教科書対応はされていますか？

教科書の各範囲の学習に動画視聴の際に役立つ「教科書対応表」のデータがあります。教員が活用する他、児童生徒に配布して利用することができます。

動画教材数について知りたいです。

小学校: 小学1～6年の学習範囲の国算理社の4教科
動画本数は2700本以上です。
中学校: 中学1～3年の学習範囲の国数理社英の5教科
動画本数は1400本以上です。



課題配信機能機能はありますか？

教員は個人単位で、指定した動画教材等を取り組む期間を決めて配信することができます。課題の取組状況も適宜、確認することができます。

小学校低学年向けの教材について教えてください。

低学年は講義動画中心ではなく、オンライン上で学ぶドリル演習を中心した教材構成です。小学校低学年児童にとって取り組みみやすく、集中力も継続しやすい内容です。